



例年ならば、梅雨明けとともに夏休み入りしている時期ですが、今年は7月末までの授業、そして梅雨空もまだしばらくは続きそうです。登校が再開して1ヶ月半ほどが過ぎ、期末考査後の疲れもあるとは思いますが、明日からの4連休、少しでもリフレッシュできると良いですね。

## ①. 【 7 / 29 (水) 校内実力テストについて】

1週間後の29日(水)に、3学年そろって校内実力テスト(進研 総合学力記述模試)が実施されます。

《1年生》 国語 (60分) ・数学 (80分) ・英語 (60分) 《12:40 終了》

高校入学後、初めての模試ですが、全国の中での自分の学力を確認し、中学とは異なる高校生に求められる学力レベルを知ってもらうために受験します。教科・科目ごと・分野別の学力が分かるので、これからの学習の指針となります。

《2年生》 英語 (80分) ・数学 (100分) ・国語 (80分) 《14:15 終了》

高校生活も折り返し地点に近づいてきました。現時点における、全国高2生の中での基礎力の定着度を確認することが目的です。志望校も記入しますので、志望校に必要な学力と自分の学力の差を確認することもできます。

《3年生》 ・文系 国語 (100分) ・英語 (100分) ・地歴/公民 (60分) 《14:25 終了》

・理系 数学Z/XY (120分/100分) ・英語 (100分) ・理科 (60分) 《14:25 終了》

入試本番まであと半年。これまでの学習の積み上げと志望校に必要な学力のギャップを、入試本番と同じ条件で確認し、これからの学習に生かすために、しっかり取り組んでください。

※ 3年で他の科目を受験希望する生徒は自宅受験となります。

## ● 模試の受験にあたって、ぜひ心がけてもらいたいこと。

(1). 緊張感を持って、本番のつもりで模試に臨んでください。

「学校の成績に関係ないから…」・「どうせまだ本気の勉強を始めてないから…」  
と自分に言い訳するのではなく、今の全力を尽くして取り組んでください。そうして初めて、今現在の自分の課題点が浮き上がってくるのです。そしてそれを知るのが模試の目的です。

＝ 進路のしおり 第33号『合格体験記』より ＝

『毎回の模試をどれだけ本番の雰囲気似せてやれるか ……』

模試を受けるときはものすごく自分にプレッシャーをかけて

ものすごく緊張してやってください。その経験が本番で必ず生きてきます。』

(2). 落ち着いて、丁寧な解答・記入を心がけてください。

残念ながら、注意事項を熟読せず、解答用紙へ雑な記入をする人が少なくありません。

- ・「雑な、不明瞭な文字 ⇒ 自分ではそう書いたつもりでも、採点者に判読できなければ×」
- ・「必要事項の未記入、誤記入 ⇒ センター試験では毎年数千人がこれで採点不可能に」

## ②. 【 なぜ模試を受験するの? 】

模試を受験する前に、目標を設定しましょう。全員に配布される『合格ライン』は、志望大学・学部・学科に合格するためには、各回の進研模試で、どれくらいの成績(得点と偏差値)を取れば

良いのか、その目安を示したものです。模試の受験前に、志望校の目標得点を確認し、それを各教科に振り分けて目標点を設定してから受験してみてください。

模試を受験する目的は、単に自分の成績・偏差値を知って受験校を決める目安にするためだけではありません。模試を受験する最大の目的は、自分がよく理解していなかった分野を確認し、それを徹底的に復習し、本番の入試で同じ間違いを繰り返さないようにすることです。ですから、受験後の復習をしなければ、模試を受験する意味は半減します。

模試を受験したら、以下のようなステップを踏んで『模試を最大限に活用』して下さい。

### ③. 【 模試を受験したらどうする？ 】

#### (1) 終わったらすぐに『自己採点』しよう

模試終了後すぐに、解答・解説冊子を配布します。記憶が鮮明なうちに、問題冊子にメモした解答などを頼りに自己採点してください。自分の解答を問題冊子にメモする習慣がなかった人は、今回の模試から、ぜひそれを実行して下さい。正確な自己採点は、大学共通テストでは必須です。・・・しかし、次が一番重要です。

#### (2) 『解き直し』をしよう

模試は、本番入試に出題される問題に、できる限り近くなるようにと考え抜かれて作成された良問です。解答・解説をよく読んで、間違えた問題や分からなかったところを、十分に理解できるまで時間をかけて解き直しして下さい。解き直しの際には、

- ・ 『できる筈だったのに間違えた問題』
- ・ 『もう少し理解があればできた問題』
- ・ 『初めて見る全く知らなかった問題』



このように分類し、『模試で間違えた問題のノート』を作ると良いでしょう。それを何回も見直し、さらに本番入試直前の見直しの時期にも繰り返しそのノートを見直すのです。こうして完全に理解し、自分のものにした模試の問題は、入試当日、力と自信を与えてくれるはずですよ。

#### (3) 自己採点結果から、『自分の志望校との距離(得点差)を確認』しよう

自己採点結果を自分の志望校の合格ラインと照らし合わせて、その得点差を確認しましょう。それが、これからの勉強で上積みしていくべき目標の点数となります。3年生は6月実施のマーク模試の結果が返却されたと思いますが、そちらにも志望校との得点差が記されています。大学入試は、目標が見えにくい競争のように思えます。しかし、各科目・各分野で現在の自分が上積みすべき点数を明確にする事によって、やるべき事の優先順位を見極め、計画的に進めていく事ができるようになります。

#### (4) 弱点科目・弱点分野を確認し、『夏休みの重点目標』を決めよう

自己採点で弱点科目・弱点分野を把握したなら、それをこの夏休みに重点的に学習するように心がけてください。

入試では苦手科目を作らないことが大切です。得意分野をさらに伸ばすことも大切ですが、80点取れる得意科目は、どんなに頑張ってもあと20点しか上乗せできません。しかし、20点しか取れなかった苦手科目は、努力次第で、最大80点まで得点を増し加える余地が残されています。

#### (5) 返却されたら『もう一度解き直そう』

夏休み明けに結果が返却されたら、そこでもう一度解き直してみよう。

「受験時」・「自己採点時」・「返却時」の三回解くなら、完全に自分のものにできるでしょう。